

試験官 A(50 代半ば、国交省の方かな)

試験官 B(40 代後半～50 代前半、教授かな)

試験は 15:20 ピッタリに部屋に案内されました。

(記憶からの復元です。質問の順番、言い回し等は若干違うと思います。)

試験官	質 問	回 答
		受験番号〇〇〇番、氏名〇〇です。 よろしくお願いします。
A	どうぞ。(着席をうながされる)	着席
A	今日は鳥取から来られたのですね	はい。昨日こちらに着きました。
A	鳥取はもう寒いですか。	はい。先日、平野部でも雪がちらつきました。
A,B	そうですか。(驚いた感じ)	(今年からはないだろうと思われていたこのやり取りがあり、少しほっとし、緊張がほぐれた。ありがたかった。)
A	では、経歴と詳述論文について 5 分程度で説明して下さい。	省略(練習どおり、4 分 15 秒程度) 想定どおりであった。
A	リフトオフ試験はやりにくくなかったですか。	いいえ。すでに整形されている現場ですのでやりにくいことはなかったです。
A	どの範囲を試験しましたか。	全てです。
A	これは県の業務ですか。	はい。
A	どの程度の過緊張状態だったのですか。	設計アンカー力 460kN/本に対し、530kN 程度です。約 1.1～1.2 倍程度でした。
A	過緊張状態の増し打ちはどこにしましたか。	過緊張となっていた既設アンカーの上段と下段です。
B	すべり面はどのように確認しましたか。	ボーリングコアより確認しました。
A	既往崩壊のすべり面が変わったのか・・・あ、変わらないのか・・・(一人ごとのように)なぜ過緊張状態になったの。	既往のすべり面は変わっていません。 一連の崩壊に対し、対策範囲が足らなかったため、端部アンカーにのみ過大な荷重がかかっており、その他は健全な状態であったと考えています。
A	動態観測はしていますか。	業務中は、変位杭による観測をしました。 施工後は、ボーリング孔を利用し、孔内傾斜計による観測を提案しています。

A	<p>提案されたということは、その後実際に観測しているかはわかりませんね(笑)。</p>	<p>(その後、発注者がお金をかけて観測しているかは疑問だね、というニュアンスで笑われているように感じた。)</p> <p>施工後の1ヶ月は、観測により変状がないことを聞いていますが、その後は報告を受けていません。</p>
A	<p>では、経歴から。 様々な業務を経験されていますね。(経歴表を見ながら) 急傾斜地崩壊対策業務の多段斜面の衝撃力を検討された業務について、どのような業務でしたか。</p> <p>えっ?(苦笑) (衝撃力の検討方法について疑問をもたれた様子で、そんなことしたのという感じで苦笑いされた)</p>	<p>はい。業務の概要を説明します。 省略</p>
A	<p>衝撃力はどの程度でしたか。</p>	<p>すいません。数字までは覚えていません。</p>
A	<p>その解決方法だと、過大評価となりそうですが、低減係数はありますか。</p>	<p>いいえ。ありません。 ただ、私のこれまでの経験上、それほど過大な重力式擁壁となったとは考えていません。高さ H=4.0m、天端幅 W=0.7m です。</p>
A	<p>なるほど。(ああ、その程度の大きさですかという感じでうなずかれていたと思う)</p>	<p>(一連斜面での衝撃力の最大値を超えないことを確認していたと、概要説明のときに話したが、そのことも再度回答すべきだった、と終わったあとに後悔...)</p>
B	<p>擁壁背面のポケット高さはどの程度ですか。</p>	<p>3.4m です。</p>
B	<p>背面のステップは。</p>	<p>1.0m です。標準断面で 1.0m を確保し、斜面形状によってはそれ以上のところもあります。</p>
A	<p>それでは、 あなたの会社では技術士を取得すれば、どのような立場になりますか。</p>	<p>まず、会社の総合評価点数も上がりますし、昇給や昇格もあります。 また、より重要な業務の担当技術者や管理技術者として業務を行うようになります。</p>
A	<p>近年、技術者の倫理が問われる問題が起きていますが、なぜ倫理が必要と思われませんか。</p>	<p>はい。科学技術は国民の安全・安心な暮らしを守るものですが、判断を誤れば、国民の安全や財産を奪われるものです。 公益の確保のために、技術士として必要な心構えだと考えます。</p>

A	公益の確保と言われましたが、技術士の3義務2責務を知っていますか。	はい。 信用失墜行為の禁止の義務 守秘義務 名称表示の場合の義務 公益確保の責務 資質向上の責務 　　です。
A	公益確保のうち、先ほど言われた公共の安全がありますね。その他にありますか。	環境の保全です。
A	資質向上も重要ですが、これまでに論文発表はありますか。	はい。学生時代に2度発表しています。
A	どのような内容ですか。	定ひずみ速度圧密試験のデータ評価方法についてです。
A,B	(へー、という感じでうなずかれていた)	社会人になってからはまだありませんので、今後はそういったこともがんばっていきたいです。
A	はい。 では、これで口頭試験を終了します。	(あまりにもあっという間だったため、ちょっと間が開き、え？もう？と顔に出たと思う。) はい。ありがとうございました。
		一礼し、荷物を持ち、ドアへ。 もう一度試験官を見たが、お二人とも何か書き込んでおられた。

部屋を退出し、次の方と目が合い、お互いに会釈をし、

「がんばって下さい」と声をかけました。

(多分、終わった開放感から、このような言葉がでたのかな?)

そのまま FORM8 のビルを出て、時間を確認したら、15:38~39分でした。

おそらく、口答試験は全体で16分~17分程度だったと思います。

試験官 Aの方が、温厚な雰囲気の方で、「うんうん」とうなずいたりして頂き、終始和やかな雰囲気でした。試験官 Bの方は、ちょっと硬い感じの方で、笑顔などはありませんでした。

経歴・詳述論文の説明時には手持ちの経歴表に書き込みをされ、質問はそれを見ながら、「えー、では・」という感じで始まったので、はじめから準備されているようではないのかなと感じました。

本当に、あっという間でした。これで良かったのか悪かったのか。

一応、全ての質問の回答に対して、「うなずき」、「そうですか」などがあったので、疑問をもたれたまま次に進んだようには感じなかったのですが、はたして.....